

文書番号	EKK91
主管部門	環境管理事務局

環境経営レポート

(2019年4月～2020年3月)

発行日：2020年7月15日

承認	審査	作成
		

小松ばね工業株式会社

1. 組織の概略及び認証登録範囲

1) あらまし

弊社の発祥は昭和16年、現在の本社（東京都大田区）所在地に於いて創業者小松謙一が、ばね工場小松製作所を創立いたしました。以来、一貫してスプリング及びゼンマイ等の設計製作に努め、技術の開発に創意を発揮し、現在精密ばねの分野では業界有数の専門メーカーとしての地位を占めるに至り、今日の精密機器産業部門の一躍を担っております

創業当初は、主にカメラシャッター用の精密ばねの専門工場として発展して参りましたが、各界の要望に応じて、時計用・電気機器用・通信機器用・OA機器用・自動車部品用・その他精密機器用ばねの部門にも漸次販路を広め、その技術も一段と幅広くなり、特に超精密ばねの技術においては、他の追随を許さないものと誇りを持っております。

当社の製品は、独特な着想と技術による当社特製の成形機をはじめ、日・独・仏・米製のコイルリングマシン、フォーミングマシン及び検査機器の最新機種をそろえた設備と熟練の技術スタッフにより、納期の厳守、新製品の開発、生産の合理化、品質の均一化、精度の正確さに合わせて、コストの低減を図っておりますので、国内のユーザーの皆様は勿論、世界のユーザーの皆様にも必ずご満足いただけるものと存じます。

当社の従業員は「秀でた技術で社会に貢献する」の理念を体して、絶えざる努力と研鑽により、国際産業に奉仕することが、我社の発展につながることを確信して今日に至っております。

2) 会社概要

商 号： 小松ばね工業株式会社
創業年月日： 1941年（昭和16年）5月23日
会社設立： 1952年（昭和27年）12月1日
資本金： 払込 1億円
本 社： 東京都大田区大森南5丁目3番18号
代表者： 代表取締役社長 小松万希子
従業員： 81名
製造品目： 精密ばね



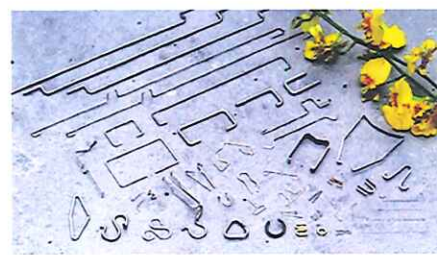
圧縮コイルスプリング



引張コイルスプリング



トーションスプリング



ワイヤーフォーミング

3) 対象事業所

①事業所名： 本社及び本社工場

環境部門： 環境管理責任者 代：小松節子（会長）

環境管理担当者 平石雅人（管理課）

住 所： 東京都大田区大森南5丁目3番18号

電 話： 03-3743-0231 F A X： 03-3743-0235 E-mail： qc@komatsubane.com

②事業所名： 大河原工場

環境部門： 環境管理責任者 荒畑宏美（工場長）

環境管理担当者 大関利博（管理係）

住 所： 宮城県柴田郡大河原町字甲子町1-1

電 話： 0224-51-5100 F A X： 0224-51-5115 E-mail： funaqc@komatsubane.com

③事業所名： 秋田太田町工場

環境部門： 環境管理責任者 渡辺和知（工場長）

総括環境管理責任者・環境管理事務局長 柳田 勉（副工場長）

住 所： 秋田県大仙市太田町斉内字北開182-4

電 話： 0187-88-2101 F A X： 0187-88-2103 E-mail： akiqc@komatsubane.com



本社第1工場



本社第2工場



大河原工場



秋田太田町工場

4) 事業活動規模 (2019年度) 3事業所合計

項目	生産量	生産高	従業員数	床面積	敷地面積
単位	万個	百万円	人	m ²	m ²
活動規模	66,024	737	81	6,448	22,608

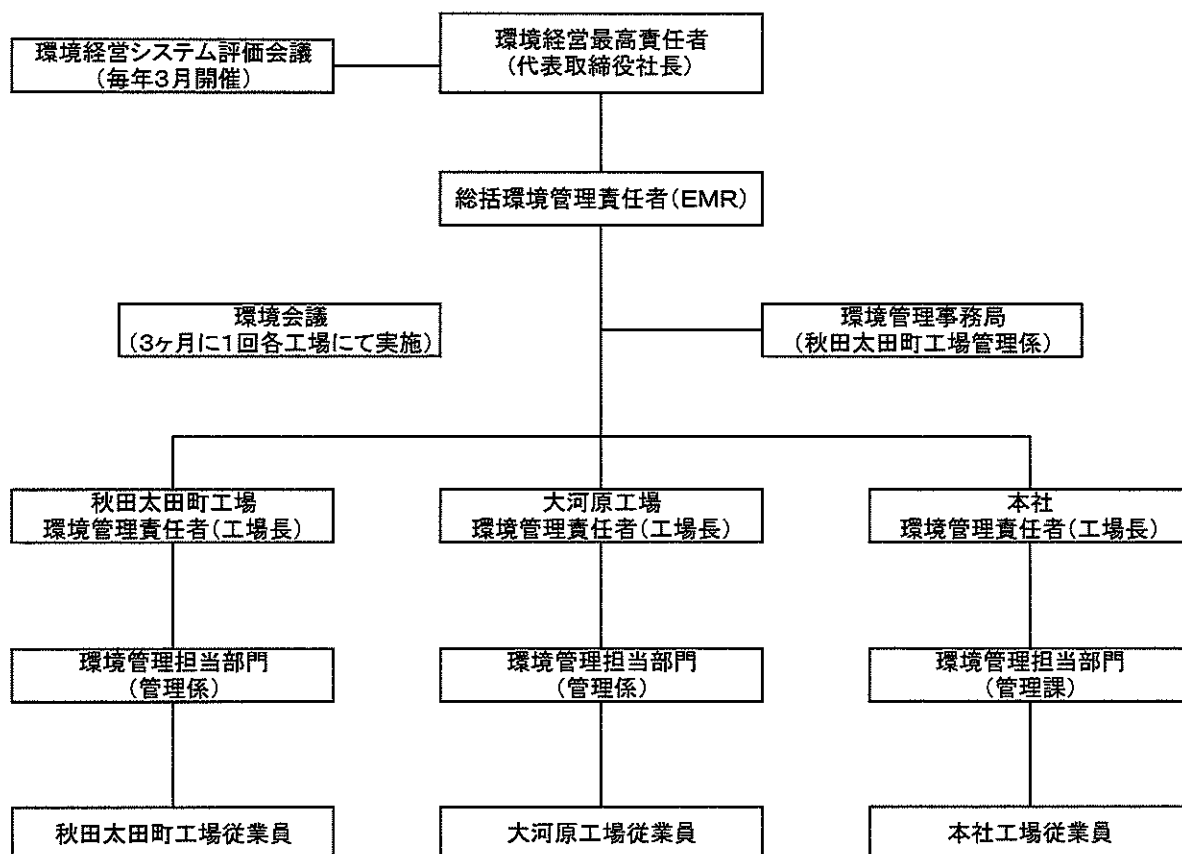
事業所別規模 (2019・3月現在)

項目	単位	本社・本社工場	大河原工場	秋田太田町工場
従業員数	人	26	27	28
床面積	m ²	2,144	2,079	2,225
敷地面積	m ²	1,694	6,555	14,359

5) 「環境経営システムの運用組織図」

小松ばね工業㈱
環境経営システムの運用組織図

2018年7月30日現在



2. 認証・登録範囲

1) 全社、全事業

2) エコアクション21の活動経過

今回の「環境活動レポート」の目標と実績は2019年4月から2020年3月までの12ヶ月間を対象にして報告しています。

3. 環境経営方針

「環境経営方針」

1. 企業理念 「お客様に必要とされる」

我々が永遠であるためには、お客様に強く必要とされ続けなければならない。いかなる環境でも、より優れた技術でより優れた「ばね」をつくることで、我々は企業を通じて社会に貢献する。

エコアクション21の理念を基に「地球との共生」を考え、当社の全ての業務にかかわる環境影響を明確にし、環境に優しい企業活動を目指す。

2. 環境経営を通じてより良い進化した組織へ成長するために、今後の経営における課題（組織の外部、内部）とチャンスを整理し、課題を克服する事で、事業発展の機会になる。事業内容、事業を取り巻く状況、事業と環境のかかわりによって変化する課題とチャンスを必要に応じて見直しをする。

3. 企業理念、事業活動における環境への負荷を整合させ、取り組むべき重点分野を特定する。

- 1) 電力、ガス、ガソリンの削減による、CO₂の排出抑制
- 2) 廃棄物の分別・リサイクル、紙の削減による、廃棄物の排出抑制
- 3) 節水などによる、水使用量の削減
- 4) 化学物質使用量の削減
- 5) 原材料の効率的な使用による、製造廃棄物の削減
- 6) グリーン調達の推進
- 7) 製品含有化学物質を把握し、含有、使用の禁止

4. 環境経営の活動を通じて環境目標、環境計画の継続的改善に努め、環境経営のステップアップを図る。

5. 環境関連法規の遵守を誓約する。

6. 全従業員へ環境経営方針の内容を理解し、取り組むことが出来るよう掲示や会議、朝礼などを活用して周知する。

2018年 7月30日
小松ばね工業株式会社
代表取締役社長
小松 万希子

4. 環境経営目標

No.	区分	環境経営目標	事業所	2017年度実績 (基準年)	2018年度目標 (前年度比)	2019年度目標 (前年度比)	2020年度目標 (前年度比)
1	OUTPUT	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電力・ガソリン・ガス・灯油)	本社	104,557	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	161,531	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	281,197	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	547,285	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-1	INPUT	電力使用量 (kWh)	本社	181,829	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	265,703	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	462,482	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	910,014	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-2	INPUT	ガソリン使用量 (L)	本社	3,660	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	3,772	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	3,960	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	11,392	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
1-3	INPUT	ガス使用量 (m ³)	本社	2,009	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	170	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	193	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	2,372	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
2	INPUT	水使用量 (m ³)	本社	383	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	837	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	10,053	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	11,273	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
3	OUTPUT	ごみ排出量 (kg)	本社	969	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	777	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	565	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	2,311	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
4	OUTPUT	金属廃棄物排出量 (kg)	本社	1,183	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	3,341	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	3,810	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	8,334	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
5	INPUT	塩素系洗浄液使用量 (kg)	本社	675	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			大河原	625	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			秋田	1,150	0.5%削減	0.5%削減	0.5%削減
			全社	2,450	0.5%以上削減	0.5%以上削減	0.5%以上削減
6	OUTPUT	規制化学物質 含有混入 (件)	本社	0	0件	0件	0件
			大河原	0	0件	0件	0件
			秋田	0	0件	0件	0件
			全社	0	0件	0件	0件
7	INPUT	グリーン調達件数 (%)	本社	42.2	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			大河原	40.4	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			秋田	44.7	0.5%増	0.5%増	0.5%増
			全社	42.3	0.5%以上増	0.5%以上増	0.5%以上増

二酸化炭素調整後排出係数 東京電力エナジーパートナー(株) : 0.462
東北電力(株) : 0.559

5. 環境経営計画と実施状況

項目		活動の内容
二酸化炭素排出量	電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない場所の消灯を徹底する。 ・LED 照明器具の導入を推進する。 ・空調の室内温度夏季28度、冬季22度とする。 ・朝の涼しい時間帯から設備を起動し、分散起動することで立ち上げによるピーク電力上昇を抑制する。 ・コンプレッサーの運転効率化をはかる。 ・電気炉の運転効率化をはかる。 ・製品歩留りを上げる。
	ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車の運転効率化をはかる。 ・アイドリングストップの励行。 ・社用車をエコカーに変更する。
	ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス炉の使用時間を調整して、運転時間短縮を行なう。
水使用量	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水コマを設置し、手洗い水を削減する。 ・洗浄機、真空炉の不要な稼働を削減して冷却水の節水を徹底する。
廃棄物排出量	ごみ排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物、資源ゴミ、産業廃棄物に分別し、再資源化を推進する。 ・コピー用紙を有効活用し、新聞紙・ダンボール等の梱包材は再利用を行なう。
	金属廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・金属リサイクル100%にする。
化学物質使用量	塩素系洗浄液使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄レス品の推進 ・代替溶剤について検討を行う。 ・アルカリイオン水及び炭化水素による洗浄を推進する。 ・洗浄機未使用時、蓋をして蒸発を防ぐことを徹底する。
物質	製品含有化学物質の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・規制化学物質含有の混入0件の維持 ・必要に応じてSDS及び分析データの入手 ・製品含有化学物質管理について内部監査を行なう。 ・半年毎のchemSHERPA改訂の内容を理解して適切に対応する。
その他	環境経営システムの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・業務遂行に必要な手順を文書化する。 ・適宜、文書・記録の見直しを行なう。
	環境保全意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・削減目標値、節電、節水等の具体的な表示を行い、節約意識を高める。 ・全従業員へ環境教育を実施する。 ・工場周辺の清掃活動を行なう。
	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン調達の推進

6. 主な環境経営目標と活動の取組結果の評価と次年度の取組内容

2019年度 環境経営目標実績

No.	区分	環境経営目標	事業所	2018年度実績 (前年度)	2019年度目標 0.5%以上削減	2019年度実績	削減率	評価
1	OUTPUT	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電力・ガソリン・ガス)	本社	89,593	89,145	85,469	-4.6	○
			大河原	169,269	168,423	158,217	-6.5	○
			秋田	263,453	262,136	247,242	-6.2	○
			全社	522,315	519,703	490,928	-6.0	○
1-1	INPUT	電力使用量 (kWh)	本社	172,888	172,024	166,613	-3.6	○
			大河原	285,210	283,784	267,298	-6.3	○
			秋田	455,182	452,906	417,303	-8.3	○
			全社	913,280	908,714	851,214	-6.8	○
1-2	INPUT	ガソリン使用量 (L)	本社	2,436	2,424	2,117	-13.1	○
			大河原	3,859	3,840	3,569	-7.5	○
			秋田	3,424	3,407	3,437	0.4	×
			全社	9,719	9,670	9,123	-6.1	○
1-3	INPUT	ガス使用量 (m ³)	本社	1,883	1,874	1,658	-11.9	○
			大河原	142	141	83	-41.5	○
			秋田	171	170	163	-4.7	○
			全社	2,196	2,185	1,904	-13.3	○
2	INPUT	水使用量 (m ³)	本社	411	409	311	-24.3	○
			大河原	722	718	756	4.7	×
			秋田	13,212	13,146	11,273	-14.7	○
			全社	14,345	14,273	12,340	-14.0	○
3	OUTPUT	ごみ排出量 (kg)	本社	825	821	744	-9.8	○
			大河原	859	855	787	-8.4	○
			秋田	603	600	574	-4.8	○
			全社	2,287	2,276	2,105	-8.0	○
4	OUTPUT	金属廃棄物排出量 (kg)	本社	1,006	1,001	838	-16.7	○
			大河原	2,498	2,486	2,278	-8.8	○
			秋田	2,890	2,876	4,535	56.9	×
			全社	6,394	6,362	7,651	19.7	×
5	INPUT	塩素系洗浄液使用量 (kg)	本社	1,025	1,020	950	-7.3	○
			大河原	375	373	625	66.7	×
			秋田	1,075	1,070	1,350	25.6	×
			全社	2,475	2,463	2,925	18.2	×
6	INPUT	規制化学物質 含有混入 (件)	本社	0	0	0	0	○
			大河原	0	0	0	0	○
			秋田	0	0	0	0	○
			全社	0	0	0	0	○
7	INPUT	グリーン調達件数 (0.5%増)	本社	41.4	41.6	31.6	-9.8	×
			大河原	43.2	43.4	28.6	-14.6	×
			秋田	48.0	48.2	40.0	-8.0	×
			全社	44.2	44.4	33.4	-10.8	×

二酸化炭素調整後排出係数 東京電力エナジーパートナー(株) : 0.462

東北電力(株) : 0.559

削減率 = 当年度実績 / 前年度実績

2019年度環境経営評価書

小松ばね工業㈱ 本社工場	
承認	作成
2020年6月17日	2020年6月17日
真島	平石

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置と次年度取組内容
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガソリン・ガス・灯油)	前年度0.5%削減 89,593.98kg-CO2 ↓ 89146.01kg-CO2	85,469.78kg-CO2 前年比4.6%減少	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
2	水使用量 (m ³)	前年度0.5%削減 411m ³ ↓ 409m ³	311m ³ 前年比24.3%減少	○	前年実績が平年以上の投入量だった為、本年実績において、前年比大幅削減となっている。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%削減 825kg ↓ 821kg	744kg 前年比9.8%減少	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%削減 1,006kg ↓ 1,001kg	838kg 前年比16.7%減少	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%削減 1,025kg ↓ 1,020kg	950kg 前年比7.4%減少	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
6	規制化学物質 含有混入 (件)	0件の維持 0件 ↓ 0件	0件 前年度同様	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(p6参照)を継続する。
7	グリーン調達	前年度0.5%増 41.4% ↓ 41.9%	31.6% 前年比9.8%減少	×	単価を考慮した結果、エコマーク品の購入に繋がらなかった。	今後も購入条件は単価を最優先と考えるが、同条件であれば、グリーン調達に合致する商品の購入を推進する。是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。

2019年度環境活動評価書

小松ばね工業㈱ 大河原工場	
承認	作成
2020年6月17日	2020年6月17日
荒畑	小宮

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置・予防処置 (環境管理責任者)
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガソリン・ガス)	前年度0.5%以上削減 169,269kg-CO2 ↓ 168,423kg-CO2	158,217kg-CO2 前年比6.5%減	○	工場内の照明をLED化したことで電気使用量が減ったことが要因と考える。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
2	水資源投入量 (m ³)	前年度0.5%以上削減 722.0m ³ ↓ 718.3m ³	756.00m ³ 前年比4.7%増	×	量産品で洗浄工程が追加になったものがあり、水道使用時間が長くなった。	洗浄機の使用時間の管理を徹底し、無駄な稼働時間を減らす。 (環境是正処置票 No.202001)
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%以上削減 859.6kg ↓ 855.3kg	787.0kg 前年比8.5%減	○	資源ごみと一般ごみの分別が出来ていた。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%以上削減 2,498.4kg ↓ 2,485.9kg	2,278.8kg 前年比8.8%減	○	廃棄量削減を意識して取り組んだ結果、達成出来たと判断する。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%以上削減 375.0kg ↓ 373.1kg	625.0kg 前年比66.7%増	×	洗浄機内で洗浄液の還元が十分おこなわれず、消費量が増えた可能性がある。	洗浄機の冷却装置が正常に稼働しているか確認しながら作業をおこなう。 (環境是正処置票 No.202002)
6	規制化学物質 含有混入 (件)	0件	0件 前年と同じ	○	製品含有化学物質の問題ないものを使用した。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
7	グリーン調達	前年度0.5%増 43.2% ↓ 43.0%	28.6% 前年比14.6%減	×	価格優先であったためエコマーク品の購入が減少した。	価格面も考慮する必要があるため是正処置票の発行はしないが、同等の価格であればエコマーク品を積極的に購入する。

2019年度環境経営評価書

小松ばね工業㈱ 秋田太田町工場

承認	作成
2020年6月17日	2020年6月17日
渡辺	柳田

No.	推進項目	年度目標	結果確認 (担当者)	評価	達成の要因/未達成の原因 (環境管理責任者)	未達成の場合の是正処置と次年度取組内容
1	二酸化炭素排出量 (kg-CO2) (電気・ガス・灯油)	前年度0.5%削減 263,453kg-CO2 ↓ 262,136kg-CO2	247,242kg-CO2 前年比6.2%減	○	全社員が削減意識を持って活動した結果、達成したと判断する。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
2	水使用量 (m ³)	前年度0.5%削減 13,212m ³ ↓ 13,146m ³	11,273m ³ 前年比14.7%減	○	洗浄機冷却設備に水漏がり修復を行う。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
3	ごみの排出量 (kg)	前年度0.5%削減 603kg ↓ 600kg	574kg 前年比4.8%減	○	資源ごみと一般ごみの分別が確実に行われた。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
4	金属廃棄物排出量 (kg)	前年度0.5%削減 2,890kg ↓ 2,876kg	4,535kg 前年比56.9%増	×	熱処理炉他、不要設備を廃棄したため増大してしまった。	不要な設備の廃棄の為、従来の活動内容(P6参照)を継続する。 是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
5	塩素系洗浄液使用量 (kg)	前年度0.5%削減 1,075kg ↓ 1,070kg	1,350kg 前年比25.6%増	×	汚れ、油分の付着に厳しい製品に対しての洗浄が多くなってしまった。	品質の維持・向上が最優先である為、従来の活動内容(P6参照)を継続する。 是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。
6	規制化学物質 含有混入 (件)	0件の維持 0件 ↓ 0件	0件 前年と同じ	○	製品含有化学物質の問題の無い事を確認している。	従来の活動内容(P6参照)を継続する。
7	グリーン調達件数 (%)	前年度0.5%増 48.0% ↓ 48.2%	40.0%前年度 前年比8%減	×	単価を考慮して、購入したためエコマーク品が増えなかった。	今後も購入条件は単価を最優先と考えるが、同条件であれば、グリーン調達に合致する商品の購入を推進する。 是正処置票・予防処置票の発行は行わないものとする。

社会状況による生産活動の変化など、さまざまな要因が考えられますが会社全体で二酸化炭素排出量を-7.9%と削減する事ができました。大河原工場では照明をLED化したこと、秋田太田町工場では老朽化した熱処理炉を交換したことが電気使用量の削減に効果があったと思います。ただし、売上係数(本年度売上/前年度売上)を加味すると+3.0%(参考)となり決して楽観視は出来ないと考えます。

また、「EA21ガイドライン 2017年度版」に準じた、環境経営マニュアル及び手順書に従い環境経営活動を行なう事ができました。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境関連法規	遵守評価留意点	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出、排出基準検査	○
下水道法	施設定期点検、水質の測定検査	○
浄化槽法	浄化槽定期点検、浄化槽法定検査	○
廃棄物処理法	処理業者との契約、保管場所における適切な保管管理	○
PRTR法	第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出	○
消防法	消防施設の点検	○

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局により違反等の指摘及び訴訟については過去3年間ありません。

8. 代表者による全体の評価と見直し

前年度監査時の推奨事項に関して、適確な目標を決められるようデータを取り、現状を把握し環境に良い生産体制になるよう推進して下さい。